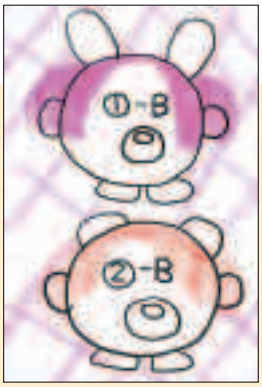
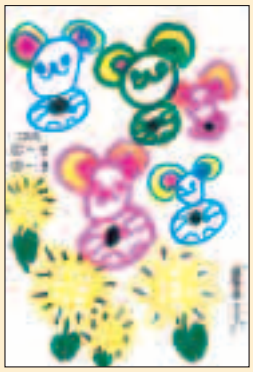


立臼　真未さん
（緑区・10歳）

赤坂　夏海さん
（白井・10歳）

太田　成美さん
（太田名部・９歳）

源田　晴菜さん
（中央区・７歳）



中村　美里さん
（旭日区・６歳）

②「アイラガドウは」さて、どのように解釈していますか。

Ａ　あなたたちは　Ｂ　君たちは　Ｃ　私たちは

【応募の方法】

♥はがきに答えの記号と、住所（**地区名**）、氏名、年齢、世帯主の名前、電話番号を書いて応募ください。正解者の中から抽選で七人に図書券をプレゼントします。匿名での応募は対象外です。

♥**あて先**…〒028―8392　普代村9―13―2　普代村役場総務課広報クイズ係

♥**締め切り**…五月二日（木）

♥平成13年12月号の答え…

①―Ｂ　②―Ｂ

♥**応募総数**…十三通で十一人の方が正解でした。抽選の結果、次の七人に図書券を送ります。おめでとうございます。

♥**当選者**…①熊谷久利実さん（盛岡市・９歳）②太田成美さん（太田名部・９歳）③太田真綾さん（旭日（あさひ）区10歳）④内野沢さつきさん（上区・９歳）⑤立臼真未さん（緑区・10歳）⑥藤島晶さん（白井・10歳）⑦赤坂夏海さん（同・10歳）

読書感想文コンクール　優秀賞作品紹介

☆小学校高学年の部

勇気を持って

鳥茂渡小六年　高屋敷　結

「大人がふたをした『真実』をおれたちの手で、もう一度開けよう。みんなでやれば、何でもできる」

これは、麗音の友達や弟が、麗音がいじめられたときに、生徒総会を開くきっかけになった言葉です。その友達は、麗音のだれにも言えない気持ちを感じ、勇気を持って決心しました。麗音はつき落とされてけがをした、という事実に対し、大人は、事故として処理をしようとしたのです。私は、大人たちは、自分が責任をおわなければならないから、うそをつき、事故処理をしたと思います。でも、真実は、真実としてどんな状きょうでもちゃんと受けとめなければならないことだと思います。しかし実際にはそれは、勇気が必要です。だれにも言えず、じっとたえている麗音に、私は、兄の姿を重ねて読んでいたので、くやしくて胸がつぶれそうな思いでした。

四歳年上の私の兄は、中学校に入学した直後から、しばしばいじめられるようになりました。もうギリギリ限界になってやっと保健室に助けを求めたときは、いじめを受けるようになって三か月もたっていたのです。休みたいのに、親に心配させまいと無理に登校して、だれにも言えず、たった一人で毎日苦痛とたたかっていた兄。その心と体の痛みを知ったとき私は、あふれるなみだを止めることができませんでした。その日から、私たち家族は、兄のために何ができるのか、可能な限りの方法で支えてあげようと決めました。そして、父と母が学校でＰＴＡの総会を開いてもらい、親や先生方と話し合いをしました。もし、このような行動を父と母がおこさなかったら、兄はくらい三年間をすごしていったと思います。父と母は、とても勇気のいることをやったと思います。

この本の中では、友達がみんなで麗音を助けるために立ち上がってくれた。麗音の名誉を守るため、そして真実のとびらを開くために。

残念なことに、私の兄はまわりの友達に手をさしのべてもらえませんでした。入学直後ということや、同じ学校出身の同級生がたった四人だけで、勇気を持ち立ち向かうことは無理かもしれなかった。でも、助けてほしかった。

この本の作者、青木和雄さんは「自分の目で見、自分の心で感じ、自分の信念で行動する勇気を伝えていきたい」と記しています。

人のことだからとか、見て見ぬふりということではなく、一人ひとりが自分の問題として取り組み、相手に対する思いやりを持つことによって解決していけるのではないかと私も思います。何よりも大切なのは、事実を事実として認め、その上で、どうすればいいのかを話し合うということです。

いじめは絶対に許してはいけないと思います。私も来年は中学生になります。真実をみきわめる目を養い、勇気を持って行動できる人間に成長していきたいと思います。（高屋敷結さんは中学二年に進級しています。）